

- 家庭教育支援指導者等研修
- 地域活性化策中学生大会
- リーダー養成講座③
- オーダーメイド型派遣事業
- 「虹色企画」北秋田市訪問
- 「七色」アスリート考

秋田県生涯学習センター(編集:社会教育アドバイザー)

令和元年度学校・家庭・地域連携総合推進事業家庭教育支援指導者等研修(10月23日 秋田県生涯学習センター)

家庭教育支援チーム・リーダー養成講座 ③

3回目となるリーダー養成講座は、「家庭教育支援における男性の関わり方について語り合おう」のテーマの下、中学生を含む多彩な年代が参加して、3人のパネリストによるフリートークのパネルディスカッションとワールドカフェ形式のグループワークが行われました。

パネルディスカッション 「“おやぢから”を見直そう」

男性の強みや弱み、家庭教育支援での役割などを語り合いました。

- パネリスト 湯沢おやじの会 滑川 道彦 氏
 パパ'sサークルピーターパン代表 長谷川聖史 氏
 追分フェスタ代表 佐藤 存 氏
コーディネーター 秋田県生涯学習センター 社会教育アドバイザー 加賀谷宗篤



グループワーク 「地域人材の巻き込み方」

家庭教育支援に関わる男性をどう増やすのかなどについて、付箋に書いて発言したり、途中グループのメンバーを入れ替えたりして、より多くの方々との意見交換や協議などが行われました。



【詳細は、当センターホームページの家庭教育支援指導者等研修実施レポートをご覧ください。】

虹色企画

訪問インタビューシリーズ 第8回 北秋田市教育委員会 佐藤昭洋 教育長

— 市政における教育のベクトルは
 市総合計画では、未来を担う子どもの育成に向けた施策を掲げている。

また、「生涯学習の充実」は、重点プロジェクトとして位置付けられている。

— 地域と学校の連携・協働は

地域と学校の連携・協働の取組には、多くの可能性が残されており、その根幹は、子どものふるさとへの「思い」を育てることにある。学校運営協議会の設置は、地域と学校の実情に沿って進めているが、設立時には、地域学校協働活動の意義や必要性を改めて捉え直す機会にもなっており、今後、地域・学校相乗りの足腰の強い取組となるよう期待している。

多様な世代が
 繋がる地域づくり

子どもの
 ふるさとへの
 「思い」を育てる



北秋田市教育委員会 佐藤昭洋 教育長

— 北秋田市の生涯学習への思いは
 現職就任後、生涯学習関係の行事等にはすべて足を運んだ。おかげで高齢者の元気や生きがいに触れることができた。と同時に、高齢者の「知」と「技」を後世にどう伝えるのかの課題意識を持った。高齢者と働く世代には、それぞれ子どもとの接点がある。この子どもを介して高齢者と働く世代と親世代が繋がる地域づくりが必要。
 多様な世代が互いに受け入れ合って育まれる生涯学習に思いが馳せる。

毎朝のルーティンは、執務室を自分たちで掃除する若手職員との「あいさつ」。「元気になるよ」と笑顔で話す教育長さんでした。

この大会は、県内の中学生が地元の企業等訪問での学びを生かした地域活性化策を提案するというものです。この日は、県北・県央・県南各地区大会の優秀校6校による決勝大会でしたが、どの学校も次代を担う中学生らしいユニークなアイデアや斬新な発想が満載でした。

審査の結果、最優秀賞は「陽気な母さんの店」を取り巻く地域素材をつなぐ「陽気なワールド」プランを発表した成章中(大館市)が受賞しました。また、審査員特別賞は、「由利組合総合病院」の公益性に着目し、10年先をみた壮大な「ヘルスタウン」構想をプレゼンした大内中(由利本荘市)と、「まんが美術館」と「蔵町」をコラボさせた「まんがの街」プランの増田中(横手市)の2校が受賞しました。

受賞3校の提案は、一つの切り口から「ひと、もの、こと」の様々な可能性がスパイラルし、連鎖し、循環していくという持続可能な地域づくり構想でした。そして、自分たちだったらこのように関わるといふ明確な当事者意識と、一緒に取り組むことで地域の未来が変わると語る“活性化仕掛け人”の顔がそこにはありました。



“活性化仕掛け人”の皆さん



秋田県生涯学習センター 2019年度新規事業の概要

オーダーメイド型社会教育主事派遣事業



この事業は、「学校・家庭・地域連携総合推進事業」の推進に係る市町村や学校などが抱える課題の解決のために、要望のあった市町村等に当センター社会教育主事が出向いて、市町村職員等と協働して課題の明確化や取組の具体化を図ろうとするものです。11月末現在、5市町及び1県立学校で延べ18回の事業が展開されています。

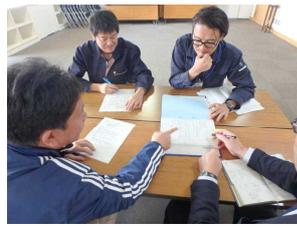
対応した課題には、地域学校協働活動推進員の育成と活用、家庭教育支援チームの設置や取組支援、学校運営協議会の在り方や地域学校協働本部との連携などに関するものが多くありました。派遣された市町村等では、グループワークによる課題の洗い出し、研修会等の運営に関する企画検討、実際の熟議や講座の実施など具体的な取組が順調に動き始めています。



熟議(北秋田市)



熟議(ゆり支援学校)



企画検討会議(羽後町)



地域連携研修会(鹿角市)

七色

ラグビーW杯の感動冷めやらぬ中、いよいよ2020東京オリンピック・パラリンピックへの期待が膨らみます。これまで、大会後の日本代表選手のコメントでは、勝者は「プロセス」への感謝、敗者は「結果」への謝罪が多かったようです。「結果がすべて」の勝利至上の際立つトップアスリートの心中、察するに余りあります◆勝者のプロセスには光が当たり、敗者のそれには当たらないという勝利至上主義の風潮は、トップアスリートに憧れを抱く子どもたちにも及びつつあります。子どもたちのスポーツの現場は、教育的意義に価値を置く学びの場であるべきです。勝利至上や強者礼賛が過ぎると敗者を思いやる気持ちや薄れ、弱者軽視の傾向が助長されることも懸念されます◆元大リーガーのイチロー氏は「結果を出せないと、この世界では生きていけません。プロセスは、野球選手としてではなく、人間をつくるために必要です」と言っています。トップアスリートを夢見て汗する子どもたちには是非聞かせたい言葉です◆道徳的葛藤を通したアスリート考は、競技スポーツのみならず生涯スポーツにおける「行動人」の在り方にも通じるように思えてなりません。